

令和2年度  
まちづくり活動  
アシスト事業報告

「閉校した小学校の有効利用で地域  
活性化を目指して!!」

中浦会  
代表 藤田 一郎



はじめに

愛媛県の最南端にある愛南町は、平成16年10月1日に南宇和郡5か町村(内海村・御荘町・城辺町・一本松町・西海町)が合併して発足し、当時約27000人いた人口が、少子高齢化の影響で現在は、20420人(令和3年3月1日現在)と減少しています。ここ中浦地区には、中学校や小学校があり、中浦公民館を拠点として、小・中学生や地域住民等を中心にイベントや事業など色々な活動を行っていました。少子化の波により平成21年3月に中浦中学校が閉校し、平成30年3月には、中浦小学校が閉校しました。

設立にあたって

閉校になった中浦小学校を有効利用出来ないかと考え、中浦公民館長、中浦地区の区長や有志、その他各種団体の長で協議を行い、平成30年4月に「中浦小学校の有効利用を考える会」を設立し、代表に中浦公民館長の私が就き、構成委員に中浦地区の有志や各種団体の長で結成しました。

どのように活用していくか?

初回の会議で「会の設立」、「施設の有効

利用」については、賛同を得ましたが、今後「どのように活用していくか?」について、何度か協議を重ね、まずは、何をするかと言うことで「船舶講習の受入」、「海の学校」、「夏季合宿」、「外国人研修生の受入」など様々な意見が出ました。その中で中浦地区で平成26年から現在まで愛南漁協が行っている外国人(インドネシア研修生)漁業技能実習(12月~2月)を足掛かりに徐々に増やしていく方向で話を進めて行くようになりました。

活動のための施設改修

2年目の令和元年度に簡易宿泊施設として利用するため、町の補助事業を活用して最低限の簡易シャワー設備等の改修を行いました。また、寝床用に職員室等に畳を敷き、寝泊り出来るよう整備し、夏場に快適な利用ができるよう窓用のクーラーを設置しました。

活動状況

これにより、8月には、以前から交流の



窓用クーラー設置状況

あった松山将棋センターの子供たちを招待して、2泊3日の夏季合宿(将棋交流会)を実施し、昼は、将棋の対局、夜は、バーベキュー等を行い、地域住民との交流を深めました。令和2年度に「中浦小学校の有効利用を考える会」という名称を地域に親しみやすくするため「中浦会」と改名し、施設の環境整備のため、8月にグラウンドの除草作業を行いました。また、計画していた夏季合宿(将棋交流会)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむなく中止しました。

まとめ

今後も閉校施設の整備等を行って、季節を問わず、地域の特色を生かした体験型事業や、継続して夏季合宿の誘致を行い、地域の子供や高齢者との交流の場として活用し、また、簡易的な宿泊施設として有効利用を目指していきたいと思えます。



将棋対局交流会(夏季合宿)



グラウンド整備(除草作業)